

ウニの集中駆除 青谷高生が挑戦

作業の大切さを考える

ムラサキウニの駆除を通して青谷の漁業について学ぶ青谷高の3年生6人が20日、鳥取市青谷町長和瀬の漁港で、ウニの集中駆除作業に挑戦した。生徒らは岩の隙間に生息するウニを探しながら、駆除作業の大切さを考えた。

ウニの駆除を題材にした授業は、青谷の課題を発見し解決策を考える同校の

「青谷学」と、県や県漁協などによる「鳥取ブルーカイボンプロジェクト」の連携によるもので、昨年度から実施している。

今年6～10月に、県内15カ所で漁師によって行われる「集中駆除」の実証実験に取り組む。ウニの大量発生による藻場の消失対策

として、効果があるか検証する。

この日の集中駆除は、港内の浅瀬で実施された。生徒らは、ウェットスーツに身を包み、水中ゴーグルやグローブを装着して、海中の様子を観察。ウニを発見するとバールなどをつぶし、10分四方に生息するウニの7～8割に相当する260匹を駆除した。

倭島悠斗さん(17)は「ウニを駆除した区画で、ウニが増えなければ成功。実験の結果がどうなるか楽しみ」と話した。(安井桃華)



海中で捕まえたウニをバールで潰す生徒。20日、鳥取市青谷町長和瀬の長和瀬漁港